資料3-2

第1章

公的機関に求める取り組み

1.1 公的機関に求める取り組み

1.1.1 あるべき姿

公的機関が提供するウェブコンテンツ全体（情報やサービス）のアクセシビリティが確保されていること。

公的機関が管理または運用するウェブサイトには、さまざまなコンテンツがあり、
それらは誰もが利用できるようにする必要があります。

ここでいう「利用できる」とは、単に情報を取得できることだけではありません。
生活に必要な情報を得たり、申請フォームをはじめとするオンラインサービスを利用して、目的を達成できることも含みます。

利用に当たり何らかの制限がある場合、一部の利用者が必要な情報やサービスにたどり着けず、不利益を受けることがあります。
内容によっては、生命や身体の安全、財産に関わる深刻な事態が発生することもあります。

そのため、公的機関には、必要な情報やサービスを、障害の有無や年齢、利用環境にかかわらず公平に提供する責務があります。
公的機関のウェブサイトでは、すべての情報やサービスについて、誰もが利用できる状態を確保することが重要です。

これを実現するには、ウェブサイトのアクセシビリティを確保・向上させる必要があります。
ウェブサイトの企画、調達、作成、更新、運用に関わる職員一人ひとりが、アクセシビリティを意識して取り組むことが求められます。
そのための基準として、**JIS X 8341-3の適合レベルAAへの準拠を目標**に取り組んでください。

1.1.2 対象範囲

公的機関が管理または運用するウェブコンテンツ全体が対象です。

提供している場所

- 公式ホームページ（スマートフォン向けサイトを含む）
- 関連サイト（例：防災関連サイト、観光用サイト、イベント用サイトなど）
- ウェブアプリケーション、ウェブシステム（例：オンライン申請、施設予約、蔵書検索、送信フォームなど）
- SNSの公式アカウント
- KIOSK端末など（例：公共施設のタッチパネル式の電子申請、施設予約など）
- CDなどの媒体で配布するもの（例：マニュアルなど）
- 職員向けのイントラネット、ウェブ技術で作られた業務アプリケーション（例：文書管理、財務会計、住民情報管理）

ウェブコンテンツ例

- ウェブページ
- PDF、WordやExcelなどのファイル
- 動画、音声コンテンツ
- ページに埋め込まれた、第三者が提供する機能（例：地図、動画プレーヤーなど）

ポイント

公式ホームページだけではなく、スマートフォンアプリ（以下、アプリ）による情報やサービス提供をする公的機関が増えています。アプリからホームページへのリンク、またその逆など、連携した情報やサービスの提供がある場合、それぞれのアクセシビリティが確保されていないと情報取得やサービス利用に困難が生じる可能性があります。ただし、アプリについては、JIS X 8341-3では基準を満たすことが困難な達成基準もあるため、開発の際には、文字色と背景色のコントラスト比や色の違い、リフローやテキストサイズの変更、ターゲットサイズに関する達成基準を満たすこと、また公開前には画面読み上げソフトでの確認を必ず行い、利用に制限がないかを確認した上で、提供することを徹底してください。

⚠ 注意

PDFファイルのみで提供している情報がある場合は、PDFファイル自体のアクセシビリティを高めるか、代替コンテンツとしてHTML版もしくはテキスト（テキストファイル（拡張子が.txt）、Markdown形式(拡張子が.md)）を提供しましょう。紙のちらしやポスターをスキャンしPDF化したファイルは、文字情報が読み取れないことが多いため、必ず適切に情報取得ができるような形式で提供する必要があります。

1.1.3　優先すべきコンテンツ

公的機関から提供される情報やサービスは利用者にとってどれも重要です。
また、なにか困り事が発生した際に問い合わせするための情報や手段も、障害者差別解消法で義務化されている「合理的配慮」の観点からも重要です。
そのため、以下のコンテンツは特に優先して対応してください。

優先すべきコンテンツ

- 生命や身体の安全に関わるコンテンツ（例：災害・防災関連、医療・健康に関する情報やサービスなど）
- 財産に関わるコンテンツ（例：税や給付金、補助などの情報やサービスなど）
- お問い合わせに関するコンテンツ（例：お問合せ先情報やお問合せフォームなど）

また、上記と合わせて、サイト全体に関わる土台の整備として、コンテンツにたどりつくための、ヘッダー、フッター、ナビゲーション及び
サイト全体に共通するコンポーネントやパーツ、またコンテンツへの主な入り口となるトップページも優先すべきコンテンツの一つと考えてください

⚠ 注意

上記に記載されている内容については、特に、申請等の手続きや、実際のサービス利用までの全工程のアクセシビティが確保されているかを、当事者によるチェックや支援技術を用いて、必ず確認してください。

1.1.4 JIS X 8341-3 レベルAA準拠とは

JIS X 8341-3に基づく適合試験を行い、レベルAとレベルAAの達成基準をすべて満たしている状態を「レベルAA準拠」といいます（以下の表のパターン4）。
レベルAAの達成基準をすべて満たしていても、レベルAの達成基準で一つでも満たしていないものがあれば「レベルA一部準拠」（以下の表のパターン2）となります。

適応レベルと対応度表記

（列）組合せパターン/ （行）適合レベルと対応度表記	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
レベルA	満たしていない 達成基準がある	満たしていない 達成基準がある	すべての基準を 満たしている	すべての基準を 満たしている
レベルAA	満たしていない 達成基準がある	すべての基準を 満たしている	満たしていない 達成基準がある	すべての基準を 満たしている
レベルAAA	満たしていない 達成基準がある	満たしていない 達成基準がある	満たしていない 達成基準がある	満たしていない 達成基準がある
対応度表記	レベルA 一部準拠	レベルA 一部準拠	レベルAA一部準拠	**レベルAA 準拠**

⚠ 注意

重要なのは、誰もが利用できることです。
そのため、

- レベルAやレベルAAでどうしても対応が難しい達成基準がある場合は、代替手段を講じるなど、そのままにしないことが大切です。
- JIS X 8341-3の適合レベルAAに準拠していても、すべての利用者が問題なく利用できるとは限りません。達成基準を満たすだけでなく、障害のある利用者による評価も定期的に行い、実際の利用状況を確認しながら改善を続けることが重要です。

本パートの参照先

ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン（ウェブアクセシビリティ基盤委員会）
https://waic.jp/docs/jis2016/compliance-guidelines/202104/

1.1.5 JIS X 8341-3 レベルA、レベルAA達成基準一覧

JIS X 8341-3 レベルA、レベルAAの達成基準は以下となります。

それぞれの詳細については、WAICが提供する、 JIS X 8341-3:2016 解説及びWCAG2.2の解説書をご確認ください。

レベルA, AAの達成基準一覧

1. 知覚可能
1.1 テキストによる代替
1.1.1 非テキストコンテンツ（レベルA）
1.2 時間ベースのメディア
1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）（レベルA）
1.2.2 キャプション（収録済み）（レベルA）
1.2.3 音声解説、又はメディアに対する代替（収録済み）（レベルA）
1.2.4 キャプション（ライブ）（レベルAA）
1.2.5 音声解説（収録済み）（レベルAA）
1.3 適応可能
1.3.1 情報及び関係性（レベルA）
1.3.2 意味をなすシーケンス（レベルA）
1.3.3 感覚による特性（レベルA）
1.3.4 向き（orientation）（レベルAA）
1.3.5 入力目的の特定（レベルAA）
1.4 判別可能
1.4.1 色の用途（レベルA）
1.4.2 音声の制御（レベルA）
1.4.3 コントラスト（最低限）（レベルAA）
1.4.4 テキストのサイズ変更（レベルAA）
1.4.5 文字画像（レベルAA）
1.4.10 リフロー（レベルAA）
1.4.11 非テキストのコントラスト（レベルAA）
1.4.12 テキストの間隔（レベルAA）
1.4.13 ホバー時又はフォーカス時のコンテンツ（レベルAA）

2. 操作可能
2.1 キーボードアクセス可能
2.1.1 キーボード（レベルA）
2.1.2 キーボードトラップなし（レベルA）
2.1.4 文字キーによるショートカット（レベルA）
2.2十分な時間
2.2.1 期限調節可能（レベルA）
2.2.2 一時停止・停止・非表示（レベルA）
2.3発作及び身体的反応
2.3.1 3回の閃光、又は閾値以下（レベルA）
2.4 ナビゲート可能
2.4.1 ブロックのバイパス（レベルA）
2.4.2 ページタイトル（レベルA）
2.4.3 フォーカス順序（レベルA）
2.4.4 リンクの目的（文脈内）（レベルA）
2.4.5 複数の経路（レベルAA）
2.4.6 見出し及びラベル（レベルAA）
2.4.7 フォーカスの可視化（レベルAA）
2.4.11 隠されないフォーカス（最低限）（レベルAA）
2.5入力モダリティ
2.5.1 ポインタジェスチャ（レベルA）
2.5.2 ポインタキャンセル（レベルA）
2.5.3 ラベルを含む名前（name）（レベルA）
2.5.4 動きによる起動（レベルA）
2.5.7 ドラッグ動作（レベルAA）
2.5.8 ターゲットのサイズ（最低限）（レベルAA）

3. 理解可能
3.1判読可能
3.1.1 ページの言語（レベルA）
3.1.2 一部分の言語（レベルAA）
3.2予測可能
3.2.1 フォーカス時（レベルA）
3.2.2 入力時（レベルA）
3.2.3 一貫したナビゲーション（レベルAA）
3.2.4 一貫した識別性（レベルAA）
3.2.6 一貫したヘルプ（レベルA）
3.3 入力支援
3.3.1 エラーの特定（レベルA）
3.3.2 ラベル又は指示（レベルA）
3.3.3 エラーの修正提案（レベルAA）
3.3.4 誤り防止（法的・金融・データ）（レベルAA）
3.3.7 冗長な入力項目（レベルA）
3.3.8 アクセシブルな認証（最低限）（レベルAA）

4. 堅牢（robust）
4.1 互換性
4.1.1 構文解析（廃止及び削除）
4.1.2 名前（name）・役割（role）・値（value）（レベルA）
4.1.3 ステータスメッセージ（レベルAA）

本パートの参照先

ウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC） JIS X 8341-3とは
https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/
WCAG 2.2 解説書 https://waic.jp/translations/WCAG22/#perceivable

1.2 取組期限

1.1.1あるべき姿で提示した、「公的機関が提供するウェブコンテンツ全体（情報やサービス）のアクセシビリティが確保されていること」を実現するために、取り組みを推進していく際、利用者への影響が大きいコンテンツから優先的に対応してください。

本ガイドラインでは、1.1.3で提示した優先すべきコンテンツとその他のコンテンツに分けて、以下のように期限を設定します。

推進していく上で、どんなことを行えば良いかは、次ページ〔1.3 取り組みの推進・公表〕にて説明します。

レベルAA準拠の期限

	優先すべきコンテンツ	その他のコンテンツ
既存ウェブサイトを改善する場合	2030年度中	状況・規模・予算・体制に応じて各団体で設定
リニューアルや新規構築をする場合	公開時点	状況・規模・予算・体制に応じて各団体で設定

1.3 取り組みの推進・公表

1.3.1　取り組みの推進

ウェブアクセシビリティ向上は、組織全体の課題としてウェブサイトに関わる全ての職員が認識し、推進していくべき取り組みです。
ウェブサイトは、組織からの情報やサービスを広く周知するための手段であることから、広報を統括する部門が主導となって全体を推進してください。

団体全体の取り組みを推進するために行うこと

広報部門等ウェブサイト全体を統括する部門は、各ウェブサイトの担当部門と連携し、
団体全体のウェブアクセシビリティ向上に向けた取り組みを推進してください。

①管理または運用しているウェブサイトについて、次の事項を把握してください。
　管理には、「取組管理表（団体全体）」を活用してください。

- 管理または運用しているウェブサイトの把握
  - 管理・運用担当部門
  - ウェブサイト数
  - 各ウェブサイトの目的
  - 各ウェブサイトのアクセシビリティ取組状況
- それらに掲載しているウェブコンテンツの把握
  - 主要コンテンツ
  - 優先すべきコンテンツ

②その上で、組織として以下の対応を行ってください。

- 各ウェブサイトのアクセシビリティ方針・取組計画の立案支援
- 職員研修の定期的な実施

各ウェブサイトとして行うこと

各ウェブサイトの取り組みを推進するにあたり、下記の3点をウェブサイトに公開し、
取り組みを実施してください。
各内容については次のページを参照してください。

公表すべき３文書
・ウェブアクセシビリティ方針
・取組評価表
・JIS X 8341-3:2016に基づく試験結果

取り組みの具体的な進め方は、［1.4 ウェブアクセシビリティ向上の進め方］を参照
してください。

1.3.2　公表すべき３文書の必要性

公表すべき３文書については、それぞれ利用者が知るべき重要な内容を示したものとなるため、その必要性を理解し、必ず公表するようにしてください。

ウェブアクセシビリティ方針

取り組み開始時に、取り組みの計画を策定し、その内容を記載し公開するもの。

公的機関の責任として情報保障に取り組むという姿勢を利用者に表明する意味を持ちます。また、目標や取り組み計画を明文化することは、法令遵守（コンプライアンス）の遂行を内外に示す意味でも重要です。
内容については、WAICの「ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン」に沿って策定し、対象範囲、目標とする適合レベル及び対応度、目標を達成する期限、担当部署、連絡手段などを記載してください。
対象範囲は、ウェブサイト名やURLなどを用いて、利用者や第三者が判断できるよう具体的に示してください。
一度公開したら、そのままにせず、定期的に見直しを行ってください。

取組評価表の公表　＜年1回＞

その年の取り組み内容を公表し、進捗を伝えるもの。

ウェブサイトは日々更新され、新しいページも追加されるため、アクセシビリティの確保・向上は、一度では終わらず、継続的に取り組む必要があります。また、コンテンツの状況によっては、対応に時間を要することがあります。そのため、改善に取り組んでいても、外部からは進捗が見えにくく、一見すると対応が進んでいないように受け止められる場合があります。
アクセシビリティ向上に向けた取り組みを着実に進めていることを示すため、毎年、その年の取組状況を「取組評価表」を活用して公表してください。
（年度末の公表を推奨）

JIS試験結果の公表　＜年1回＞

JIS X 8341-3に基づく試験による結果を公表し、現状を伝えるもの。

試験結果の公表は、利用者にとっても、ウェブサイトで何が利用でき、どのような課題が残っているのかを把握するために有用です。対応できていない内容を確認できることで、利用者は状況を理解し、必要に応じて別の手段を選択することができます。
なお、試験結果は、結果にかかわらず必ず公開してください。

1.4 ウェブアクセシビリティ向上の進め方

1.4.1 取り組みの進め方

取り組みの進め方については、すでに構築済みのウェブサイトを改善していくのか、リニューアルや新規構築していくのかで、推進方法が異なります。
それぞれについて、次ページ以降で進め方の例を提示していますので、参考にしてください。

既存サイトの改善を行う場合→1.4.1　既存ウェブサイトを改善する場合
リニューアル/新規構築の場合→1.4.2　リニューアルまたは新規構築をする場合

1.4.1　既存ウェブサイトを改善する場合

既存ウェブサイトの改善の場合は、以下のステップに従って改善の取り組みを行ってください。
優先順位に従って、 Step1～4を繰り返し段階的に範囲を拡大し、取り組みを進めてください。

図1-1　既存ウェブサイトを改善する場合の対応ステップ

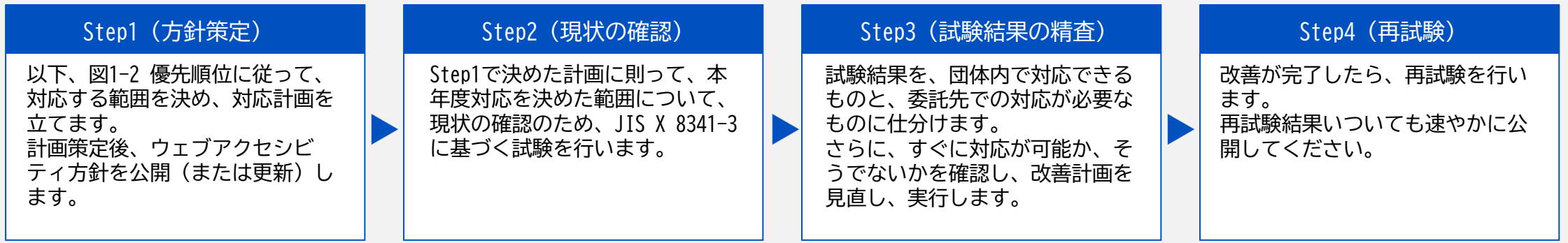
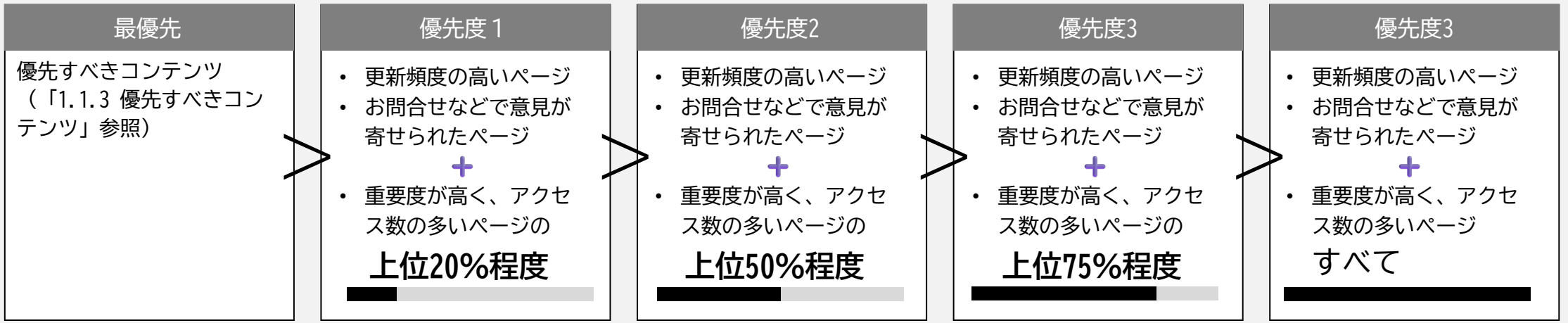


図1-2　優先順位



注記　「重要度の高いページ」とは、利用者への影響度や法的な権利・義務・手続きに関する情報などを考慮して団体ごとに定めてください。また、各優先度で示している割合（%）はあくまでもイメージなので、自団体のサイト規模や状況に合わせて調整してください。優先度4まで完了した場合は、重要度の高いページ以外にも対象を広げ、さらに改善を重ねましょう。

1.4.2　リニューアルまたは新規構築をする場合

公開時に、最低限の対応として、優先すべきコンテンツ（「1.1.3 優先すべきコンテンツ」参照）のレベルAA準拠を必須としてください。
個別ページは、予算や体制を考慮して対応範囲を定めてください。
リニューアルや新規構築では、公開後の運用でもアクセシビリティを維持・改善できる状態を作ることが大切です。各Stepの具体的な進め方は、それぞれの参照先を確認してください。（内容FIX後に参照ページを追記する）

図1-3　リニューアルや新規構築をする場合の対応ステップ

Step1（方針策定）	Step2（委託・実施・受入れ）	Step3（公開前レビュー・公開）	Step4（試験の実施と結果の公開）
対象範囲・予算・スケジュール、過去のコンテンツや外部プラットフォームの扱いなど、アクセシビリティに関する要件を定める。 優先すべきコンテンツについては、適合レベルAA準拠を必須とする。	仕様書に要件を明記して外部委託先を選定し、各工程と納品時にアクセシビリティを確認する。 公開後に向けて、自団体用ガイドライン（CMSテンプレート・運用ルールを含む）の整備と研修を行う。	障害当事者によるウェブサイトレビュー（難しい場合は支援技術を用いたチェック）を行い、利用に制限がないかを確認し、公開する。	公開後にJIS X 8341-3に基づく試験を行い、達成できていない基準も含めて結果を公開する。

翌年から ▶ 「1.4.1 既存ウェブサイトを改善する場合」のStep1から実施する。

注記　JIS X 8341-3 レベルAA準拠をあるべき姿としてサイト構築を行う場合、事前の要件定義や各工程での専門家によるチェックなど、アクセシビリティをあまり考慮せず行ったサイトリニューアルや新規構築よりも工数がかかります。そのため、予算やスケジュールを策定する際にはその点も考慮し、無理のない計画を立てることが重要です。

初稿

第7章

試験を行い、結果を公開する

7.1　試験とは

「試験」とは、各団体で策定・公開したウェブアクセシビリティ方針に基づき、対象としたページが、JIS X 8341-3:2016に対応できているか（適用される達成基準に関し、目標として設定した対応度に適合しているか）を確認することです。

試験は、個別のページに対して実施する方法（ウェブページ単位）と、多数のページで構成されるページ一式に対して実施する方法（ウェブページ一式単位）とがあります。詳細については［7.2.2 試験対象ページの選び方］を参照してください。また、試験はアクセシビリティチェックツールなどで機械的に点検できる項目と、アクセシビリティや JIS X 8341-3:2016を十分理解した上で人の確認作業が必要な項目があります。**アクセシビリティチェックツールだけでは全てを試験することができない点に注意してください**。

試験の実施手順、ページ選定の考え方などについて、JIS X 8341-3:2016「附属書JB（参考）試験方法」及びウェブアクセシビリティ基盤委員会「JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン」を参照してください。

ポイント	試験は特定の機関が実施しなければいけない等の決まりはなく、ウェブコンテンツのアクセシビリティを適切に評価できる知識を持つ者であれば誰でも実施することが可能です。 試験実施事業者の選定については「7.4 JIS試験の適切な取り組み 試験を委託する業者の選定のポイント」を参照してください。
本パートの参照先	JIS X 8341-3:2016「附属書JB（参考）試験方法」　ウェブアクセシビリティ基盤委員会「JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン」 https://waic.jp/docs/jis2016/test-guidelines/

7.2　JIS試験の進め方

7.1.2　試験のフロー

JIS X 8341-3:2016に基づく試験は、ウェブサイトごとに実施してください。
公式ホームページからオンライン申請サイトやオンラインサービスサイトへ一連の流れが複数のサイトにまたがっているような場合は、各サイトが連携して実施できるように計画してください。
試験には専門的な知識が必要となるため、ここではJIS X 8341-3に関する知識を持つ委託業者に依頼すること想定して記載しています。
なお、団体内で試験を実施する場合も、手順や内容は同様になります。

1

試験の対象範囲と実施計画を定める

ウェブサイトごとに、以下の項目を明確にし、実施計画を策定してください。

- 診断する基準（JIS X 8341-3を明示）
- 試験対象範囲及び試験対象ページ　※ページの選び方は〔7.2.2 試験の対象ページの選び方〕を参照
- 実施期間
- 試験期間のページ更新の有無
- 送信を伴うものがある場合の対応方法
- 指定のツールがあればその名称

対象範囲は、ウェブアクセシビリティ方針と整合させ、ウェブサイト名、URL、ドメイン、ディレクトリなどで具体的に示してください。
また、実施期間に関しては40～50ページ程度で、約2～3ヶ月かかる場合があります。十分な期間を設け計画してください。

チェック項目

- 試験対象となるサイト及びURLをを明確にしているか
- 目標とする適合レベル及び対応度は明確に示されているか
- 試験実施期間は十分確保されているか
- 試験に関する諸条件は明確に示されているか
- 試験中の連絡手段は明確に示されているか

2

試験を依頼し、結果を確認する

❶で策定した計画をもとに、委託業者に試験を依頼してください。
委託業者の選定については、［7.4 JIS試験の適切な取り組み］を参照してください。

試験結果を受け取ったら、内容に不備がないかを確認してください。

チェック項目

- 試験対象範囲が計画と一致しているか
- ツールだけではなく、目視による確認も行われているか
- ページごとに結果が具体的に示されているか
- 指摘内容と達成基準が紐づいているか
- 準拠、一部準拠の評価に誤りがないか

3 結果を精査し、仕分けする

試験結果を仕分けし、改善を計画します

すぐに改善が必要なものについては、速やかに取り組んでください。
予算や体制を確保して取り組む必要があるものについては、内容に応じて、リニューアル時の要件に含むなどの対応を検討してください。
また、すぐに対応ができない場合は、代替策を講じるなど、そのままにしないようにしてください。

チェック項目

- 自団体内で対応ができるか
- 委託業者に依頼が必要か
- すぐに対応可能か
- 予算や体制を確保して取り組む必要があるか

4 改善を行い、試験結果を公表する。

❸の仕分けをもとに、改善がすぐにできるものから対応し、改善後に再試験を実施します。
試験後は、速やかに結果を公開してください。
試験結果の公開方法については、〔7.3　JIS試験の結果を公開する〕をご確認ください。

チェック項目

- 試験結果の記述はWAIC「JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン」の定めるルールに則っているか
- ウェブアクセシビリティ方針や取組確認表とあわせて確認できる場所に掲載しているか

7.2.2 試験方法と試験の対象ページの選び方

試験については、以下２つの方法があります。

- ウェブページ単位での試験
- ウェブページ一式（ウェブサイト）単位での試験

「ウェブページ単位での試験」については、ウェブサイト内のページごとに試験を行うため、準拠、一部準拠の評価もページごとの評価となります。
それに対して「ウェブページ一式（ウェブサイト）単位での試験」は、個別のウェブサイト全体に対して、選択した40~50ページを試験をすることで、
その結果をそのサイト全体の評価とみなすものとなります。
本ガイドラインでは『ウェブコンテンツ全体について、誰もが利用できる状態を確保することを目指す』というあるべき姿の考え方に基づいて、みなしではなく、「ウェブページ単位での試験」の実施を推奨します。

対象ページの選び方（概要）
※詳細はウェブアクセシビティ委員会のJIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン2. JIS X 8341-3:2016「JB.1 適合試験の要件」に対する補足事項を参照

選び方	内容	気をつけるべきこと
① ：全ページ	サイト内のすべてのページを試験 総ページ数が100ページ程度までの場合に推奨	ページ数が多いと、試験に時間と費用がかかる
② ：無作為に選ぶ（ランダム選択）	サイト全体から無作為に選んだページを試験	優先すべきコンテンツや主要なページが対象とならず、対応が後回しになってしまう可能性がある
③ ：代表的なページを選ぶ	優先すべきコンテンツやトップページなど、情報提供側が任意で指定したページを試験	任意のコンテンツから始めるため、全体を網羅的に対象とすることができず、サイト内のアクセシビティ改善に偏りが生じる可能性がある
④ ：②と③を組み合わせる	代表的なページと、無作為に選んだページの両方を試験 総ページ数が100ページを超えるウェブサイトを対象とする場合に推奨 試験対象ページ数は合計40～50ページ程度が目安	バランスの良い進め方だが、数千ページあるサイトの場合は長期間を要する

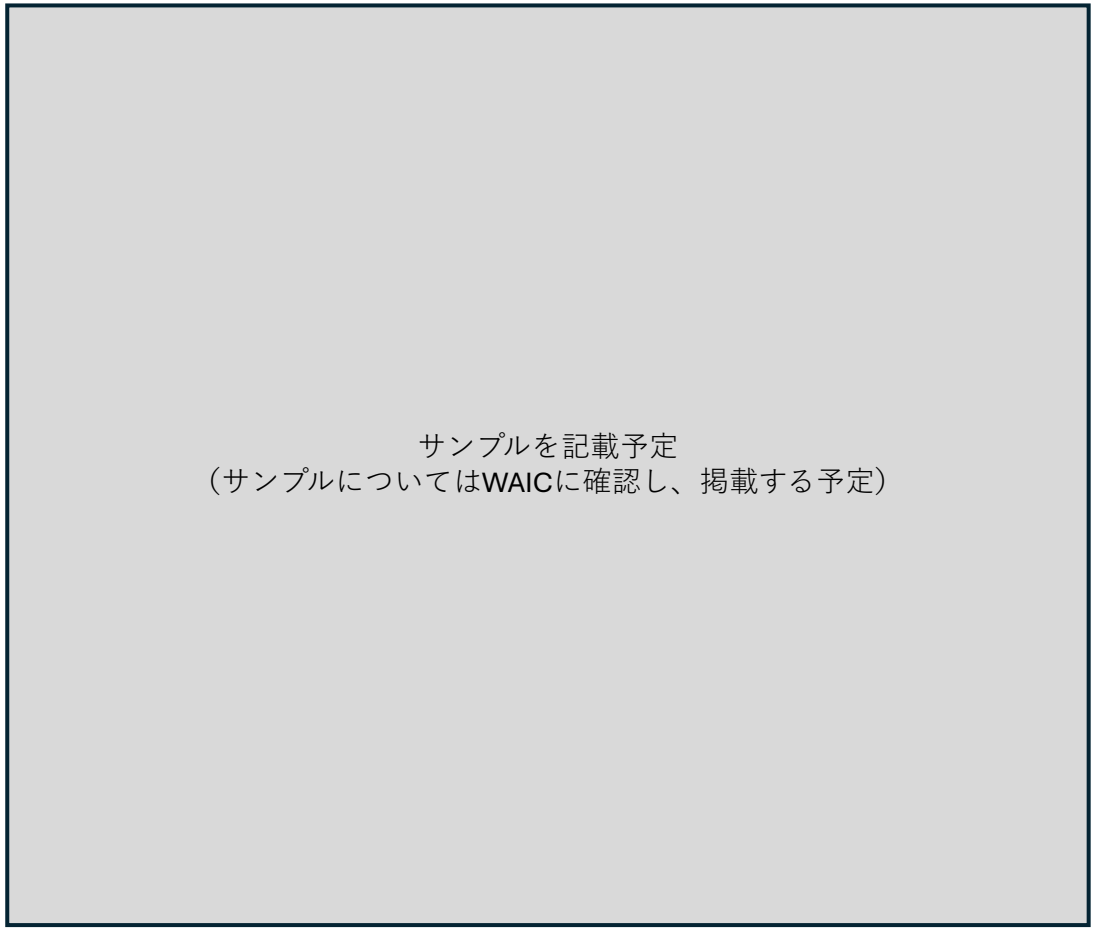
参照先

WAIC「JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン
https://waic.jp/docs/jis2016/test-guidelines/

7.3　JIS試験の結果を公開する

試験を行った結果については、内容に関わらず、必ず公表してください。
試験結果に記載すべき内容について、JIS X 8341-3:2016「附属書JB（参考）試験方法」を参照してください。

試験結果の公表は、利用者にとっても、ウェブサイトで何が利用でき、どのような課題が残っているのかを把握するために有用です。対応できていない内容を確認できることで、利用者は状況を理解し、必要に応じて別の手段を選択することができます。



参照先	WAIC「JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン」（試験対象の選定、実装チェックリストの作成、検証結果の記入） https://waic.jp/docs/jis2016/test-guidelines/

7.4 試験の適切な取り組み

試験については、JIS X 8341-3に関する正しい理解を持った委託業者の選定が重要です。

また試験実施後は、試験結果を正しく理解し、速やかに改善に取り組んでください。

試験を委託する業者の選定のポイント

- JIS X 8341-3及びWCAG2.2の達成基準に関する内容を理解している。
- チェックツール及び目視での検証に対応できる。
- 報告書のサンプルを提示できる
- 試験結果で不適合となった点に関して、その理由や具体的な説明ができる
- 改善支援や再試験に対応できる

また、実績の提示については、必須ではありませんが、あれば任意で提示を依頼するのもよいでしょう。

試験結果確認後の適切な取り組み

下記の点に留意し、取り組みを推進してください。

- 試験結果に不適合があった場合：改善策を検討し、どうしても改善が難しい場合は代替策を検討するなど、そのままにしない。
- 第三者が提供するツールについて：たとえ対象外と記載しても、試験結果から除外されるわけではないため、不適合があった場合には、ツールの提供元に改善を要求する
- 改善について：制作及び運用を委託している外部委託先任せにせず、自分たちで改善できる点は速やかに対応する。
- CMSの大幅改善が必要な問題点があった場合：改善点と指摘内容を取りまとめて、リニューアル時の要件に含め根本的な改善を行う。

⚠ 注意

JIS X 8341-3においては「検査（適合）証明書」のようなものは定義されていません。そのため、「検査（適合）証明書」の公開は必須ではありません。
また「適合」という用語については、ウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC）の「ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン」（https://waic.jp/docs/jis2016/compliance-guidelines/202104/）にある「（参考）『JIS X 8341-3:2016』の「適合」と本ガイドラインについて」を参照してください。